



# 季刊 Sunshine

2023  
立春号

発刊元：株式会社 Sunshine 福島県二本松市若宮 1-127 <https://re100sunshine.jp>  
発刊日：2023年2月3日

## 春のはじまりに — 改めて営農型発電を想う

私達、二本松営農ソーラー株式会社/株式会社 Sunshine は、この度『季刊 Sunshine』として季節の変わり目(立春、立夏、立秋、立冬)におたよりを出版することにしました。末永くお付き合いください。▼立春の今号は改めて営農型発電とはなにかに触れたいと思います。営農型太陽光発電とは、同一の土地で太陽光発電と農業を同時に行う土地利用形態を言います。1981年 Fraunhofer ISE を設立した アドルフ・ゴツバーガー (Adolf Goetzberger) 氏が提唱しました。2003年長島彬氏が solar sharing と命名して、日本ではこのソーラーシェアリングという名前が一般に使われていますが、世界的にはアグリヴォルテイクス (Agrivoltaics=agiculture: 農業+photovoltaics: 太陽光発電) という名称が一般的です。〇〇型太陽光発電という名称からは、たくさんある太陽光発電の形態のうちの一つということが連想されます。地上設置型太陽光発電、屋根置き型太陽光発電、水上設置型太陽光発電、カーポート型太陽光発電などです。太陽光発電を中心にみていくとそうなのですが、農業側から見るとどう見えるのでしょうか？



代表取締役 近藤 恵



Sunshine のメンバー

▼震災前に専業農家として一定の実績を作りつつあった私は、当初、営農型発電に懐疑的でした。『農業はとても忙しく専業でこそ農業が成り立つ。2足のワラジは履けない』『所得補助を発電事業で実現しようとするなんて、農業が半人前だからだ』と。いまでは、その考え方を全く改めています。設備も進化、低価格化しており、私が代表を務める二本松市の市民電力ゴチカンでは、ドイツから技術導入した垂直ソーラーを稼働させています。大型農業機械が入ることが可能になったり、発電ピークを朝と夕方にずらして市場に再エネが少なくなる時間に供給することができるようになってきました。屋根に太陽光パネルを張った農業ハウスや、寒冷紗のようなソーラーシステムも登場してきました。▼農業を中心に考えると、その形態に合わせたさまざまなタイプの太陽光発電が考えられます。そこで、試しに次のように言い換えてみました。— 『太陽光発電型農業』こうすると主従が逆転するよう見えませんか。文字通り、同一の土地で太陽光発電も農業も行う。そして、ただただ同時に行うということではなく、両方のプロとなるべく今年の歩みを進めていきたい。次号は営農法人である株式会社 Sunshine の企業理念を紹介させていただきたいと思います。(近藤 恵)



寒さに耐える小麦



葉を巻いたぶどうの苗

## ネットショップ開設しました！

株式会社 Sunshine のネットショップを開設しました。健康な生活をつくる「太陽のエゴマ油」や、可愛いイラストを使用した「ソーラーシェアリング T シャツ」、さらに新商品「太陽の有機大豆」など取り揃えています。QRコードから是非お買い求めください！



太陽のエゴマ油 (5本入り)  
¥2,680

ソーラーシェアリングTシャツ  
¥2,500 - ¥2,800



<https://re100sunshine.square.site>

## ~ Sunshine Quiz ~

Q. 次のうち、Sunshine で栽培しているぶどうの芽はどれでしょう！？



1



2



3

正解は立夏号にて！